

東北地方の気候特性と道路特性

東北地方 縦断する奥羽山脈を挟んで日本海側と太平洋側で気候が異なり、冬は日本海側で雪が多く、夏は太平洋側で雨が降りやすくなっています。

福島県 奥羽山脈の西側は会津地方、東側は中通り地方、沿岸部は浜通り地方となり、沿岸部と異なり、中通り・会津地方はたくさんの雪が降ります。

東北中央自動車道 相馬IC～桑折JCT

東北中央自動車道(相馬IC～桑折JCT)は、トンネルと橋梁が連続しており、区間全体の約半分がトンネルと橋梁となっています。

また、当該路線を整備することにより、中通りと浜通りの物流効率の向上に資するだけでなく、災害に強い道路の実現が可能となります。そして、より安心・安全な走行を可能とするために様々な管理施設を整備しています。



コスト縮減と安全性の両立に向けて

ドライバーの安全性・サービスレベルを十分確保しながら、以下の設備等によりコスト縮減を図ります。

① トンネル非常用設備

① 安全性に配慮した設備配置

トンネル内は剛性中央分離帯によって上下線が構造的に分離されています。そのため、通常片側に配置される非常用設備を両側に配置することにより、事故・災害発生時に道路利用者が迅速に非常用設備を利用できるように安全性に配慮しています。

② 非常電話表示灯のLED化 (ランニングコストの削減)

従来蛍光灯を光源としていたランプをLED方式に変更することで、ドライバーへの視認性も高くなるほか、消費電力低減が可能となります。

③ 新技術による通話品質の改善

トンネル壁面に設置する非常電話は、車両通行による大騒音下(概ね電車が通るガード下と同等の騒音レベル)で通話する必要があり、通報先の相手と通話しにくいという課題がありました。そこで、骨伝導式マイクを併用した新技術の非常電話を用いることで、コスト増を抑えつつ、クリアな通話を可能としました。



【骨伝導式非常電話機の導入】

② トンネル内照明設備

① トンネル照明の光源(インシャルコスト、ランニングコストの削減)

トンネル照明は24時間365日点灯しますが、LED照明灯の採用により、長寿命化が図られます。また、LED照明は白色系光源であるため、安全・快適な視環境が確保できるほか、電力使用量の低減が可能です。

③ 受変電・配電設備

① トップランナー変圧器

昨今の省エネに対する社会的要請を受け、エネルギー消費効率の高いトップランナー変圧器を採用し、消費電力を軽減します。
従来品比:80%

④ 交通量計測設備

① 支柱本数の削減

交通量計測設備は計測センサーを設置するための支柱が必要となりますが、道路情報表示設備の支柱に共架することで、支柱本数の削減によるコスト縮減と支柱の乱立を防ぎ景観性向上に努めています。



【道路情報表示設備への共架】

東北中央自動車道

管理施設(相馬IC～桑折JCT)

>>> 安心・安全な通行のための対策



国土交通省
東北地方整備局

お問い合わせ



福島河川国道事務所

〒960-8584 福島県福島市黒岩字榎平36
TEL. 024-546-4331(代) FAX.024-546-4731
<http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

令和3年3月現在



国土交通省 東北地方整備局
福島河川国道事務所

